

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成28年1月14日
【四半期会計期間】	第40期第3四半期（自平成27年9月1日至平成27年11月30日）
【会社名】	株式会社ピクルスコーポレーション
【英訳名】	PICKLES CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 宮本 雅弘
【本店の所在の場所】	埼玉県所沢市くすのき台3丁目18番地の3
【電話番号】	04（2998）7771（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役経理部長兼財務部長 三品 徹
【最寄りの連絡場所】	埼玉県所沢市くすのき台3丁目18番地の3
【電話番号】	04（2998）7771（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役経理部長兼財務部長 三品 徹
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第39期 第3四半期連結 累計期間	第40期 第3四半期連結 累計期間	第39期
会計期間	自 平成26年3月1日 至 平成26年11月30日	自 平成27年3月1日 至 平成27年11月30日	自 平成26年3月1日 至 平成27年2月28日
売上高 (千円)	20,440,886	23,106,920	26,805,018
経常利益 (千円)	933,274	776,925	1,098,216
四半期(当期)純利益 (千円)	392,655	553,921	503,869
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	426,549	588,661	549,317
純資産額 (千円)	7,446,570	7,854,476	6,554,338
総資産額 (千円)	15,886,052	16,968,564	15,761,460
1株当たり四半期(当期)純利益 金額 (円)	63.88	112.06	86.53
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	-	111.95	-
自己資本比率 (%)	46.8	44.3	41.5

回次	第39期 第3四半期連結 会計期間	第40期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自 平成26年9月1日 至 平成26年11月30日	自 平成27年9月1日 至 平成27年11月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	20.13	13.04

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 第39期第3四半期連結累計期間及び第39期については、潜在株式が存在しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額を記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社における異動については、第2四半期連結会計期間において、県西中央青果株式会社の株式を50.7%取得したことで、平成27年11月30日現在において、当社グループは当社、子会社10社及び関連会社4社により構成されることとなりました。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績の分析

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、好調な企業業績、雇用環境の改善などにより緩やかな景気回復基調となっているものの、個人消費につきましては、円安による物価の上昇や消費税増税後の節約志向などから、引き続き厳しい状況が続いております。

食品業界におきましては、消費者の安全・安心、低価格志向が続く中、円安による原材料価格高騰への対応、フードディフェンスを含めた食の安全・安心への取り組み強化や価格競争の激化、少子高齢化への対応などが求められております。

このような状況のもと、当社グループは、全国の製造・販売拠点を活用した営業活動、CMなどの広告宣伝活動及び売場提案などの販売促進活動を積極的に実施し、既存得意先への拡販や新規取引先の開拓を行いました。

製品開発面では、「ご飯がススムキムチ」のリニューアル、(株)湖池屋監修の「ご飯がススム カラムーチョキムチ」及び大人気キャラクター「ふなっしー」とのコラボキムチ「ご飯がススム ふなっしーの梨キムチ」、さといもを使用した期間限定商品「ご飯がススム さといもキムチ」などの開発を行い、販売を開始いたしました。

また、国産野菜の調達方法の多様化や国産野菜の産地における生育状況や取引価格動向などの情報収集の強化を目的として、県西中央青果(株)を平成27年6月に子会社といたしました。

売上高は、「ご飯がススムキムチ」などのキムチ製品や惣菜製品が好調に推移しました。利益については、春や秋の天候不順による野菜の生育遅れや品質低下の影響により、主要な原料野菜である白菜や胡瓜などが高騰し影響を受けました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は23,106百万円（前年同四半期比13.0%増）、営業利益は747百万円(同16.0%減)、経常利益は776百万円(同16.8%減)となりましたが、負ののれん発生益の影響により、四半期純利益は553百万円（同41.1%増）となりました。

#### (2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて1,207百万円増加し、16,968百万円となりました。これは主に現金及び預金の増加及び受取手形及び売掛金の減少によるものであります。

負債については、前連結会計年度末に比べて93百万円減少し、9,114百万円となりました。これは主に支払手形及び買掛金の増加及び未払法人税等の減少によるものであります。

純資産は前連結会計年度末に比べて1,300百万円増加し、7,854百万円となりました。

#### (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

#### (4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費は150百万円であります。

## 第3【提出会社の状況】

## 1【株式等の状況】

## (1)【株式の総数等】

## 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	23,592,000
計	23,592,000

## 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成27年11月30日)	提出日現在発行数 (株) (平成28年1月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	6,398,000	6,398,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	6,398,000	6,398,000	-	-

## (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

## (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

## (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

## (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成27年9月1日～ 平成27年11月30日	-	6,398,000	-	740,900	-	707,674

## (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である平成27年8月31日現在の株主名簿により記載しております。

## 【発行済株式】

平成27年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,361,500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,035,400	50,354	-
単元未満株式	普通株式 1,100	-	-
発行済株式総数	6,398,000	-	-
総株主の議決権	-	50,354	-

(注) 「単元未満株式」には、当社所有の自己株式14株が含まれております。

## 【自己株式等】

平成27年8月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ピックルスコーポ レーション	埼玉県所沢市くすのき台3 -18-3	1,361,500	-	1,361,500	21.28
計	-	1,361,500	-	1,361,500	21.28

## 2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。  
役職の異動

新役名	新職名	旧役名	旧職名	氏名	異動年月日
取締役	県西中央青果株式会社 代表取締役社長	取締役	物流管理センター長	大羽邦明	平成27年7月15日

## 第4【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成27年9月1日から平成27年11月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成27年3月1日から平成27年11月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人日本橋事務所により四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年11月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,533,604	3,013,315
受取手形及び売掛金	3,070,683	2,826,462
商品及び製品	145,994	145,279
仕掛品	43,914	45,228
原材料及び貯蔵品	193,325	222,591
繰延税金資産	54,003	54,035
その他	45,350	63,080
貸倒引当金	2,992	2,840
流動資産合計	5,083,885	6,367,153
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,747,227	2,663,067
機械装置及び運搬具(純額)	864,465	804,575
土地	6,153,556	6,198,651
リース資産(純額)	113,322	119,594
その他(純額)	35,627	42,731
有形固定資産合計	9,914,199	9,828,619
無形固定資産	64,058	56,002
投資その他の資産		
投資有価証券	440,168	457,778
繰延税金資産	161,915	159,428
その他	97,235	99,581
投資その他の資産合計	699,318	716,789
固定資産合計	10,677,575	10,601,410
資産合計	15,761,460	16,968,564

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年11月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,344,672	2,518,586
短期借入金	1,500,000	1,450,000
1年内返済予定の長期借入金	1,067,797	1,216,986
リース債務	52,823	44,414
未払法人税等	278,752	115,671
賞与引当金	87,735	39,301
役員賞与引当金	44,020	-
その他	986,759	1,062,525
流動負債合計	6,362,559	6,447,486
固定負債		
長期借入金	1,958,131	1,766,849
リース債務	86,271	82,606
繰延税金負債	16,439	19,431
役員退職慰労引当金	142,992	-
退職給付に係る負債	276,022	292,054
負ののれん	322,226	294,070
その他	42,479	211,589
固定負債合計	2,844,562	2,666,601
負債合計	9,207,122	9,114,087
純資産の部		
株主資本		
資本金	740,900	740,900
資本剰余金	669,100	870,763
利益剰余金	6,303,582	6,787,086
自己株式	1,259,485	1,006,630
株主資本合計	6,454,097	7,392,119
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	90,924	117,693
その他の包括利益累計額合計	90,924	117,693
新株予約権	-	4,714
少数株主持分	9,316	339,948
純資産合計	6,554,338	7,854,476
負債純資産合計	15,761,460	16,968,564



## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年11月30日)
売上高	20,440,886	23,106,920
売上原価	15,565,835	17,958,555
売上総利益	4,875,050	5,148,365
販売費及び一般管理費	3,984,912	4,400,665
営業利益	890,137	747,699
営業外収益		
受取利息	111	15
受取配当金	3,934	4,381
負ののれん償却額	28,155	28,155
持分法による投資利益	5,019	-
受取賃貸料	23,341	31,761
事業分量配当金	3,752	5,345
その他	16,519	22,017
営業外収益合計	80,834	91,676
営業外費用		
支払利息	14,920	11,983
持分法による投資損失	-	19,259
賃貸費用	17,778	21,430
その他	5,000	9,777
営業外費用合計	37,698	62,450
経常利益	933,274	776,925
特別利益		
補助金収入	27,553	26,940
負ののれん発生益	-	89,136
特別利益合計	27,553	116,077
特別損失		
固定資産処分損	23,379	5,960
減損損失	132,631	-
特別損失合計	156,011	5,960
税金等調整前四半期純利益	804,816	887,041
法人税等	408,321	325,265
少数株主損益調整前四半期純利益	396,495	561,776
少数株主利益	3,839	7,855
四半期純利益	392,655	553,921

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年11月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	396,495	561,776
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	30,054	26,885
その他の包括利益合計	30,054	26,885
四半期包括利益	426,549	588,661
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	422,661	580,689
少数株主に係る四半期包括利益	3,888	7,971

## 【注記事項】

( 連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更に関する注記 )

( 連結の範囲の重要な変更 )

第2四半期連結会計期間末より、県西中央青果株式会社の株式を取得したため、同社を連結の範囲に含めております。

( 四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理 )

( 税金費用の計算 )

当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

( 追加情報 )

( 役員退職慰労引当金 )

当社及び連結子会社における役員退職慰労金について、従来、内規に基づき算出した支給見込額を役員退職慰労引当金として計上しておりましたが、平成27年2月期の定時株主総会において、役員退職慰労金制度の廃止に伴い同日までの在任期間に対する退職慰労金を各役員の退任時に打ち切り支給することを決議いたしました。

これに伴い、第1四半期連結会計期間において「役員退職慰労引当金」を全額取り崩し、固定負債の「その他」(長期未払金)として計上しております。

( 四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係 )

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)、のれん及び負ののれん償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年3月1日 至 平成26年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年3月1日 至 平成27年11月30日)
減価償却費	370,235千円	393,973千円
負ののれん償却額	28,155	28,155

(注) のれんの償却額は金額的重要性がないため、記載を省略しております。

## (株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成26年3月1日至平成26年11月30日)

## 1 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年5月29日 定時株主総会	普通株式	76,734	12	平成26年2月28日	平成26年5月30日	利益剰余金

(2) 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

## 2 株主資本の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成27年3月1日至平成27年11月30日)

## 1 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年5月28日 定時株主総会	普通株式	70,417	15	平成27年2月28日	平成27年5月29日	利益剰余金

(2) 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

## 2 株主資本の著しい変動に関する事項

当社は、平成27年5月15日付で、第三者割当による自己株式の処分を実施しました。この結果、当第3四半期連結累計期間においてその他資本剰余金が201,663千円増加、自己株式が252,854千円減少し、当第3四半期連結会計期間末において資本剰余金が870,763千円、自己株式が1,006,630千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成26年3月1日至平成26年11月30日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成27年3月1日至平成27年11月30日)

当社グループは、漬物製造販売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年11月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	63円88銭	112円06銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	392,655	553,921
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	392,655	553,921
普通株式の期中平均株式数(株)	6,146,876	4,943,213
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	-	111円95銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	-	4,546
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 前第3四半期連結累計期間については、潜在株式が存在しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額を記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年 1月14日

株式会社ピクルスコーポレーション

取締役会 御中

監査法人日本橋事務所

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 山 村 浩 太 郎 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 千 保 有 之 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 新 藤 弘 一 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ピクルスコーポレーションの平成27年3月1日から平成28年2月29日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成27年9月1日から平成27年11月30日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成27年3月1日から平成27年11月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ピクルスコーポレーション及び連結子会社の平成27年11月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。